

令和5年度 幼保連携型認定こども園和光園 事業報告

◇特別支援保育は、保護者協力のもと個別具体的な支援計画のもと保育を実施した。

◇年度途中（8月1日）開園の和光園分園（0歳児専用棟）は各フロアの保育人数が少なくし、感染症対策に重点的に行っている。1Fに相談スペースを設け、分園とはいえ0歳児専用として機能的に使える園舎となった。

◇令和5年度は七条幼稚園の園長先生、主任教諭、地域の民生委員の方に施設関係評価をしていただいた。

「園を運営するにあたっての安全管理が行き届いている。行われている教育・保育に育てたいこどもの力と整合性がある。またその力が遊びを通して獲得しようとしている園のねらいを感じ取ることができた。」と評価していただき、励みになった。

◇和光園で大事にしている事を網羅している和光園のしおりに加筆する事項があったので加筆を行い、職員で共有した。コンプライアンスの強化、ガバナンスの強化にも繋がった。

◇休憩室の設置は3月工事開始。4月開設を願っていたが、4月1日に間に合わなかった。

令和6年度4月中ごろからの使用開始となった。肉体的・精神的な疲れを癒す助けとなってほしいと願っている。

① 理念と目標の再確認

- ・和光園のしおりの改訂を重ね、法人及び施設のビジョンを再確認し、職員全員が改めて実践とのつながりの理解を深めた。

② 適切な保育サービスの提供

- ・月一回行う防災計画に基づいた訓練について今年は防災・危機管理委員会のマニュアル整備の効果もあり、訓練時間が短縮した。
- ・保育の質を低下させないための検証見直しの結果、子どもたちの運動遊びへの参加態度、クラスでの遊びに集中する姿がよく見られ、特に4・5歳児クラスの子どもの取り組み内容が深まり、園にくる事を楽しみにする様子がみとれた。

③ 人材の確保 育成

- ・雇用にあたり新規職員の就労形態の希望を聞き、それに即した雇用条件で雇用することができた。また新規職員に適した研修を行うこともできた。

④ 運営の透明性の確保

- ・例年通り外部監査を受け、HPに掲載した。財務の透明性と良好な運営状態というだけでなく大阪市の監査で重大な指摘がないことが、適正な運営が行われている事が職員にも自信に繋がったと考える。今後も現状を維持できるように努めたい。

⑤ 地域との共生

- ・民生委員の方々との話では、流入してくる世帯の大半は新築マンション居住世帯で、地域とのつながりを求めている世帯は少ないように感じるとのことである。子どもにとって園行事等で地域と交流する機会が、楽しく、有意義なものになることを、子どもの姿を通して保護者の方にも理解してもらうことが肝要だと考え、より地域での立ち位置、地域に対してできることを考えていきたい。

⑥ 収支計画

- ・「わこうえん ひよこ」(和光園分園・0歳児専用棟)新設のための建築コストが当初計画よりかなり上がった。理事会、評議員にも諮り修正予算を組み大阪市に提出。これまでの積立を確実に行っていたので積立金を崩すも、運営費(6月分)を割り込むことはなかった。計画から事業承認され交付決定を受ける期間に建築コストが急激に上がったため、建築コストの高騰による修正予算は致し方なかったように思われる。それよりもまた、健全経営を継続しくことが肝要であると考え、精進する次第である。
- ・入所率も95%を切ることはなくまた、人件費も総事業費の75%を超えることはなかった。

⑦ 園児の健康管理 園の安全管理

- ・適正に行われている。

⑧ 園児の栄養管理

- ・食材の高騰のため予算の若干の修正を必要とすると思われたが、旬の食材を使いながらも、発注権限者である管理栄養士が、仕入業者との交渉で価格を抑えた仕入ができ修正の必要はなかった。適正に行われている。

⑨ 教育 保育

- ・適正に行われている。

⑩ 職員処遇

- ・職員処遇で有給消化率100%未達成職員が1名いた。翌年度に繰り越して消化してもらう。それ以外、適正に行われている。

⑪ 事務管理

- ・適正に行われている。

⑫ その他

- ・お寺の行事や合唱について説明は園長が実施している。